

---

# 彼女と僕の一日

くずみ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

彼女と僕の一日

### 【ZPDF】

N1399H

### 【作者名】

くずみ

### 【あらすじ】

休日、暇な僕達は一人で過ごしていた。本を読んでいる彼女そして僕も。そんな時、ふと彼女が動き出した。そんな、彼女と僕の一  
日

「…あ

何か強い視線を感じる

「ん？」

その視線の主、さっきまで目の前で本を読んでいた彼女がこちらを凝視していた

「なん むわっ」

ガシッと頭を掴まれた

「…ひょっと動かないで」

そう言つて僕の前髪を束ね、それを少しづつ分けている

「なに?」

なんだかよくわからない僕

「…もひょっと、じつとしてて」

真剣な表情で毛先を凝視している彼女に言われた

「ん」

言われた通りじっとする

「…………」

真剣表情で前髪をかき分けた彼女が、指先で器用にその内の一本を  
摘んだ

「なに? どうしたの?」

ぴっと弱く髪を引つ張る

「これ

彼女は何かを手のひらにのせ、それを僕に見せた

「…………?」

何も乗つてない

「……枝毛」

よく見ると、非常に細い毛がのつっていた

「そんな細いのよく見えたね」

「……えへん」

胸を張る彼女

「ありがと」

素直に感謝しておく

ふむ、枝毛…か

もう無いかなー、と前髪を自分で弄る

「……」

するとそれを見た彼女がむくつと立ち上がった

「ん? 今度はどうしたの?」

すると彼女は僕の後ろに回り込んだ

「え? え?」

ガシッと、それほど強くはないが頭を後ろから掴まれ、固定された  
そして

「……うわ

わらわらと手櫛が入る

「…ほかに、枝毛がないか見てあげる」

そういふと、手櫛を入れたり髪の毛の先を摘んだりと頭や髪がいじ  
られる

「……」

なんて言つか

うん

結構気持ちいい

頭が撫でられると言づか、自分じゃない誰かに髪、と言づか頭を触られるところそばゆい感じがするが、彼女の優しく手つきに、何となくいい気持ちいい感じがして、思わず

目が細まっていく

「…………」

「…………」

僕はあまりの心地よさに無言でその感触を楽しみ、彼女は真剣に、だけど優しく僕の髪を梳いてくれる

「…………」

「…………」

なんだかとってもゆるゆるとした気分になってきた  
頭を撫でられるのが好きな人の気持ちがよく分かる  
そんな行為が数分間続き

「…………終わり」

最後にもう一回手櫛で髪を整えると彼女の手が離れた

「…………ありがと」

名残惜しいことこの上ないが、それでも満足な気分があるのでよし  
とじよ、うん

「……なんていうか、うん、すいへ、気持ちよかつた、というか、心地よかつた、ありがと」

「…えへん」

とまた胸を張る彼女、そして

「……ん」

ずいっと頭を出してくれる彼女

「えーと?」

「…私にも

むくっと立ち上がつ彼女は今度は僕に背中を向けた  
…………

「…………」

足を崩して床に手をつき、準備万端とばかりにじっと構え、背中  
がいつでも来こと言つてゐる

「りょーかい」

「…………ん

彼女の長い髪の毛に手を伸ばす

さらさらで綺麗な彼女の髪、この髪に枝毛なんてあるのかな、と思

いながら彼女の髪を手の平でできるだけゆっくりとそして彼女がしてくれたように優しく梳いていく

「…………」

「…………」

何も言わない彼女だが、雰囲気がもつとやれ、と言っている

「…………」

「…………」

ちらっと彼女の横顔を見ると、田をつむり気持ち良さそうな顔をしている

「…………」

「…………」

真面目に彼女の髪の枝毛を捲すが、見つからない

「…………」

「…………」

彼女の長い髪を人通り見終わつた

そしてさつき彼女がしてくれたように手櫛で綺麗に整え

「はい、終わり、ん？」

「…………」

彼女が今度はこちらを向いた  
ぼーっとしている彼女と正面で向き合つ

「ん? どし わつ」

すつと彼女が前に倒れた

「だ、だいじょうぶ?」

と思つたら額を僕の胸に押し付けて來た

「回 | もつ 一回」

「…………」

ちよつとだけ顔を離して、じっと、上田使いに見上げてくれる

「…………」

「…………ん わかった、じゃあ、後ろ向いて」

「…………」

動かない彼女

うん、無理に動かそつとも思わないんだよね

「…………」

「…………」

ひとしきり考え

「…………まつたく、わがままだね」

彼女の頭に手を伸ばし、髪を梳いていく

「…………えへへ」

さつきとは違う向きに内心やりこべを覚えながらも、気持ちよさ  
そうな彼女の顔に嬉しさを感じ、彼女の髪を梳いていく

そんな彼女と僕の一日

(後書き)

ふと思いついた事です。

なんとなく書いてみたくなつて書いたので、下手かもしれません。

でも楽しんで頂けたら幸いです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1399h/>

---

彼女と僕の一日

2010年12月9日04時29分発行